
「中国やまなみ街道」全通後の波及効果について

～沿線自治体・観光施設・道の駅における調査結果～
(概要版)

平成28年3月

I. アンケート調査

1. 調査概要

○ 調査目的

中国やまなみ街道全通後3ヶ月間
(H27年4月～6月)の波及効果を把握。

○ 調査方法等

対 象：中国やまなみ街道／街道と
接続する高速道路沿線の
観光施設(126)・道の駅(30)

調査時期：平成27年7月

方 法：郵送配布・郵送回収方式

○ 調査エリア・調査区分

前回調査（H25）と同様、4エリアに
区分して、波及効果等进行分析。



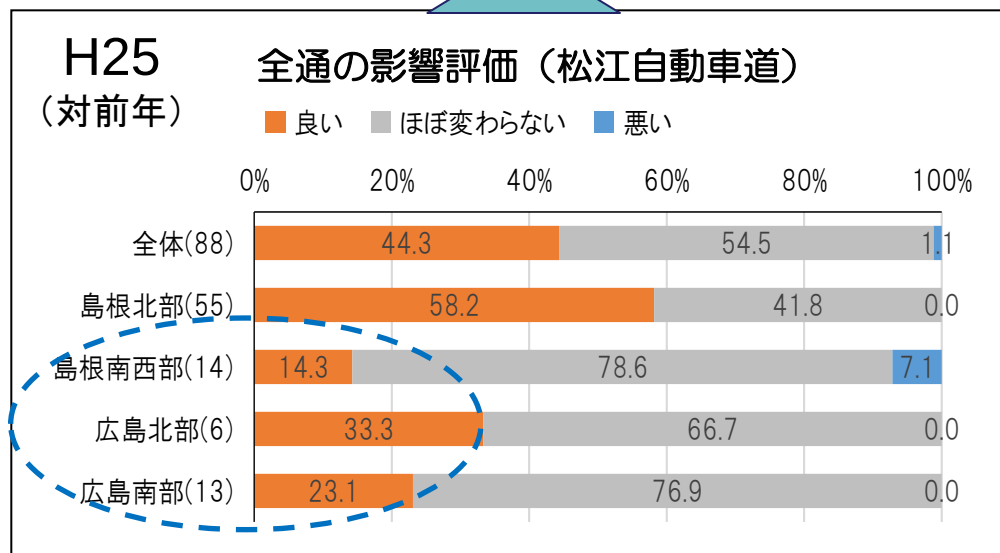
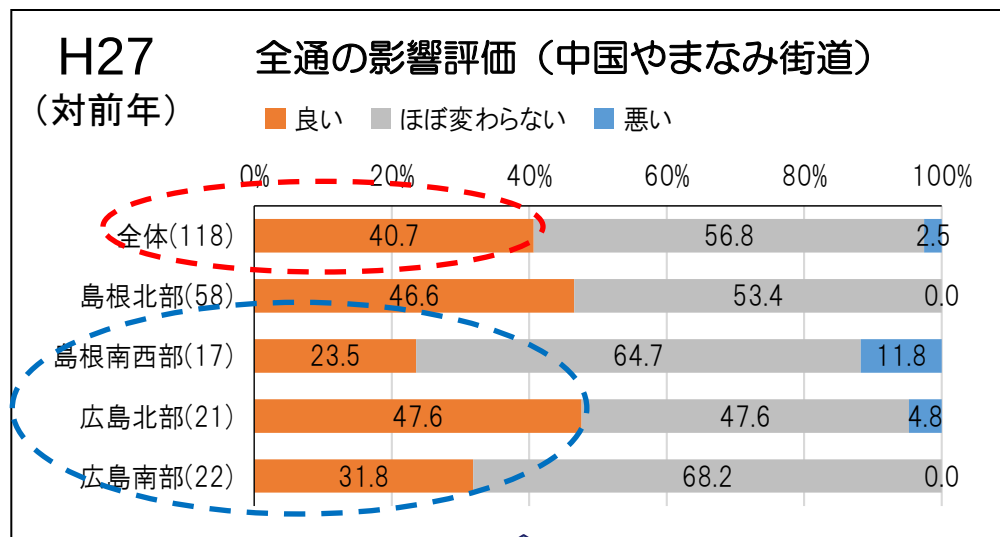
2. 調査結果(観光施設)

(1) 中国やまなみ街道全通の影響評価

☑ 約4割の施設(48/118カ所)
が『よい』と評価

☑ 松江自動車道開通時(H25)と
比較して、好影響エリアが拡大

(H27時点では「島根北部」以外の
地域での『よい』評価の比率が増加)



2. 調査結果(観光施設)

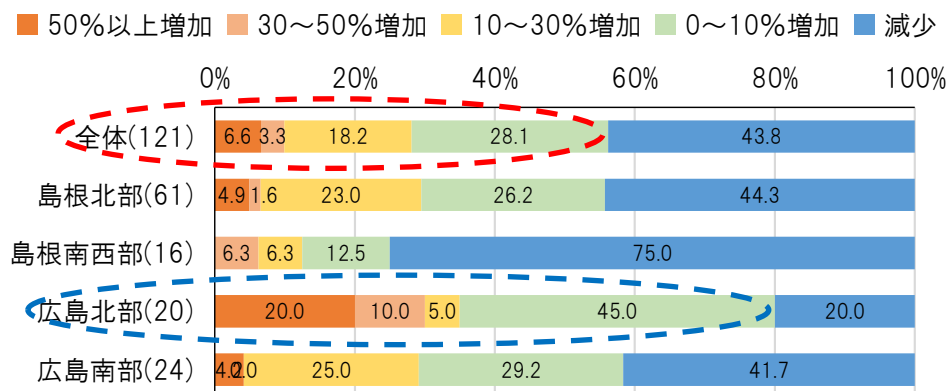
(2) 入館者数の変化(エリア別)

☑ 約 6 割の施設において入館者数が増加

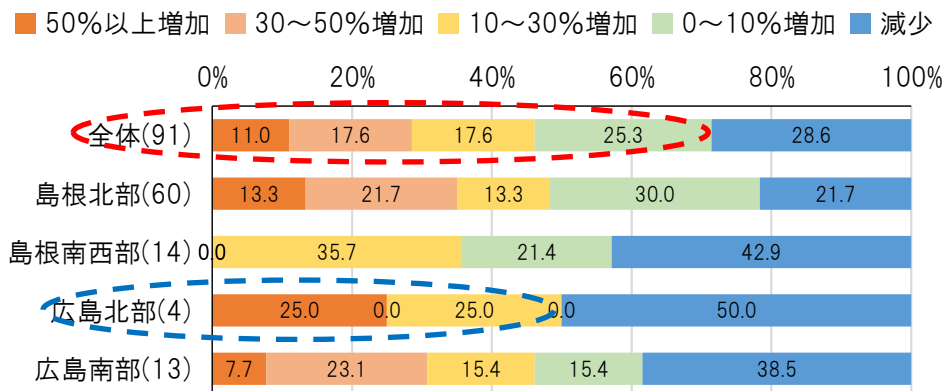
松江自動車道全通（H25.3）
後の増に続き、中国やまなみ
街道の全通（H27.3）により
更なる集客をもたらしている

☑ 特に広島北部において顕著な 好影響が発現 (H25 : 50%→H27 : 80%)

H27(対前年) 入館者数の変化(中国やまなみ街道全通)



H25(対前年) 入館者数の変化(松江自動車道全通)

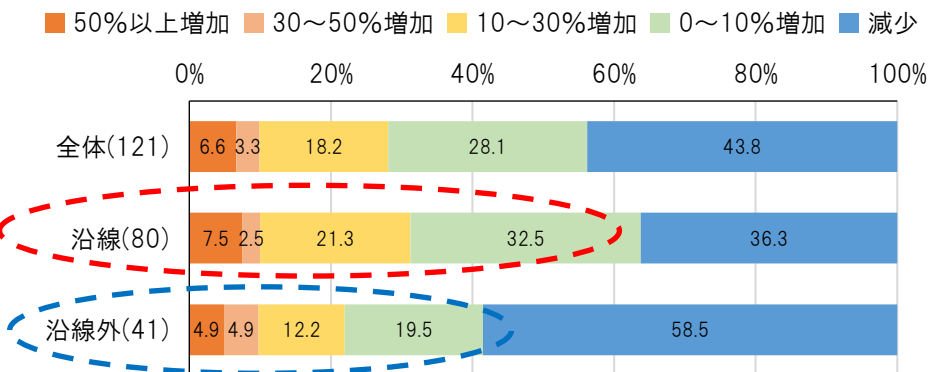


2. 調査結果(観光施設)

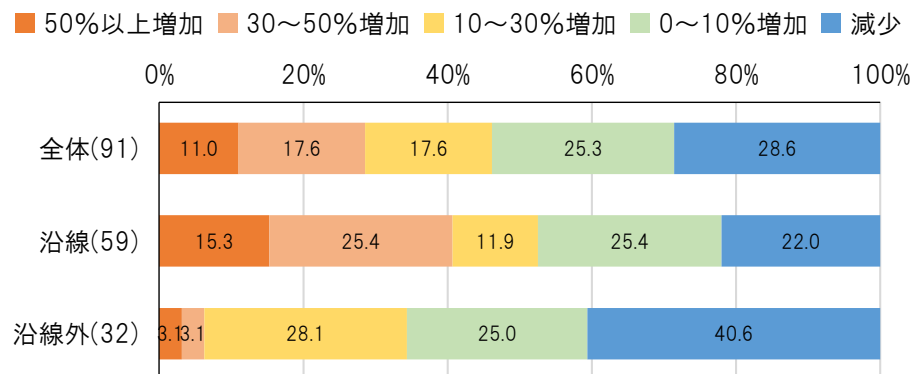
(3) 入館者数の変化(沿線・沿線外)

☑ 好影響の波及効果は高速道路
(中国やまなみ街道) の後背地
エリアにまでは十分に広がって
いない

H27(対前年) 入館者数の変化(中国やまなみ街道全通)



H25(対前年) 入館者数の変化(松江自動車道全通)



(注) 沿線自治体

松江市、出雲市、雲南市、庄原市、三次市、尾道市、世羅町

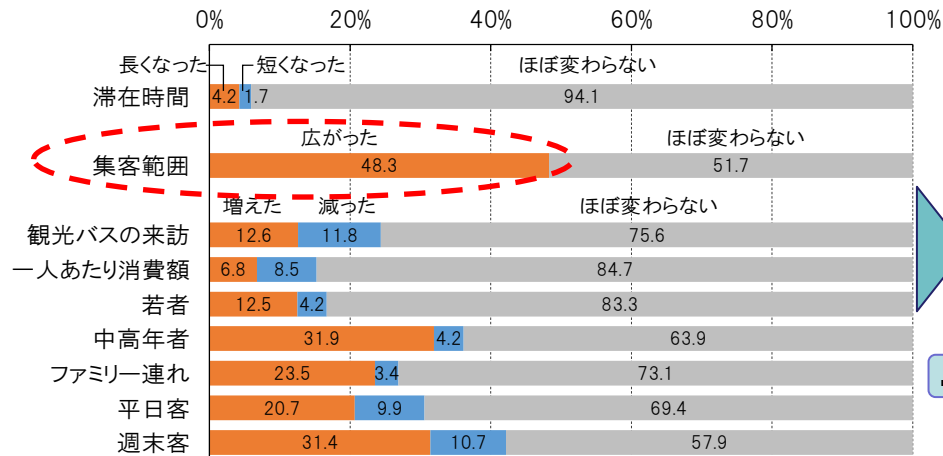
2. 調査結果(観光施設)

(4)入館者の動向(「集客範囲」が拡大した地域)

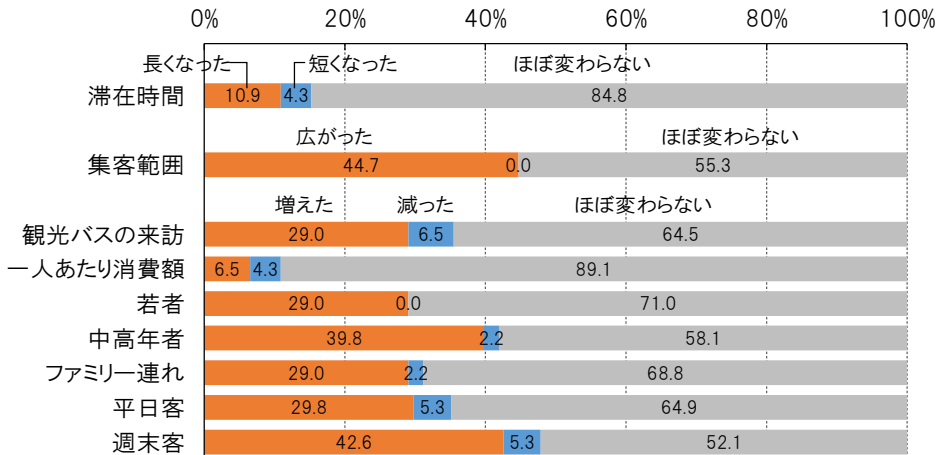
☑約5割が「集客範囲の拡大」を実感

ネットワーク効果により集客範囲が四国・山陽道沿線に拡大

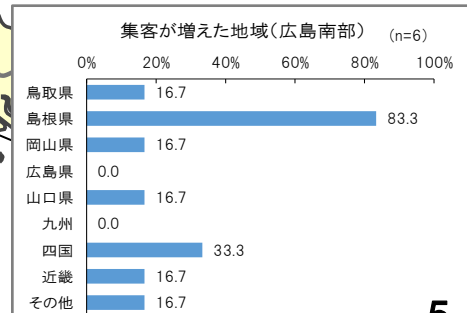
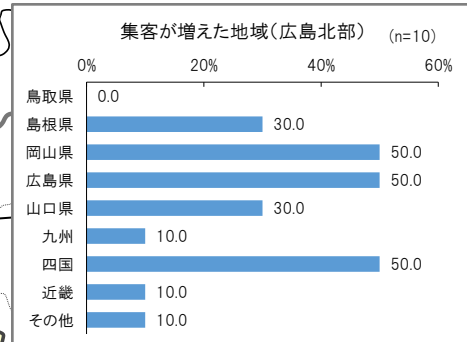
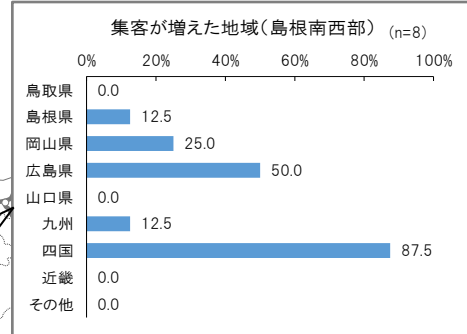
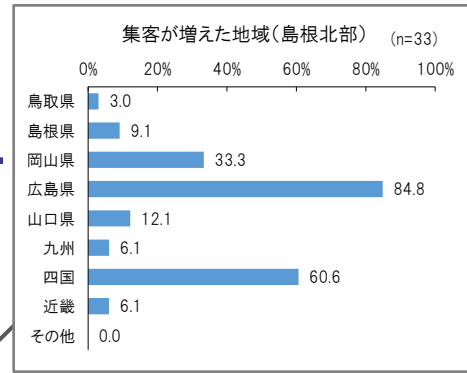
H27(対前年) 入館者数の変化(全体) (n=121)



H25(対前年) 入館者数の変化(全体) (n=94)



中国やまなみ街道全通の影響
による入館者数の動向



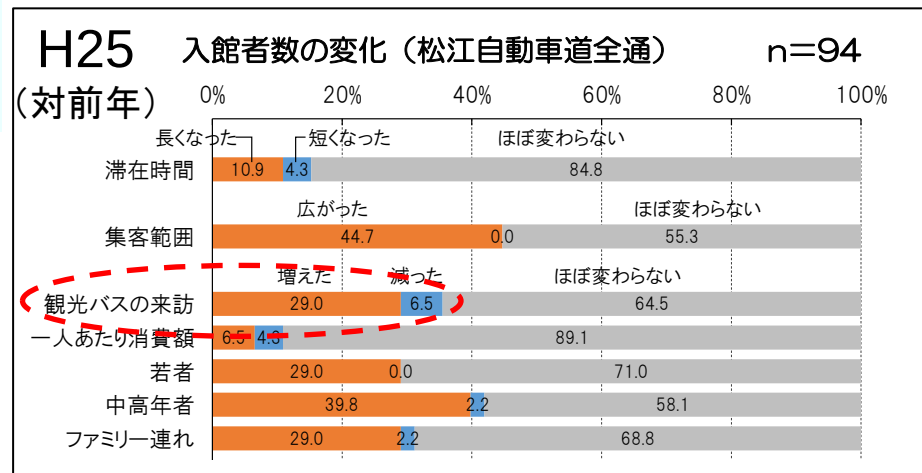
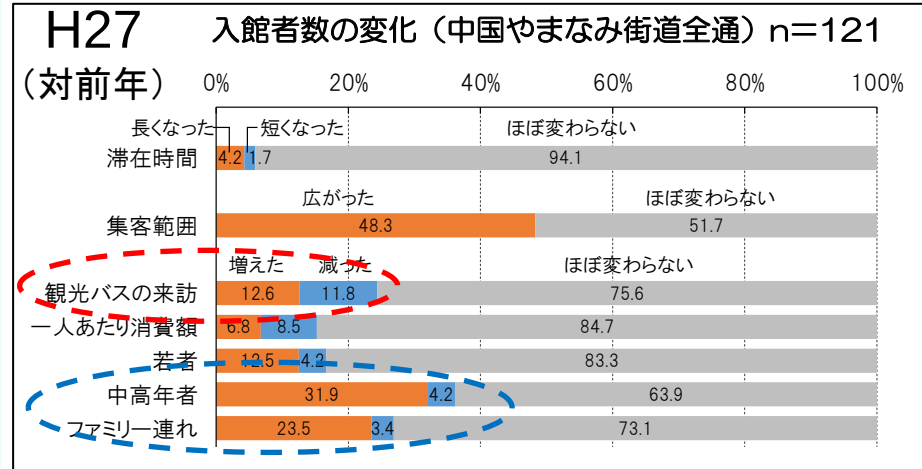
2. 調査結果(観光施設)

(5)入館者の動向(階層別)

☑各層（中高年者、ファミリー連れ等）
において、中国やまなみ街道全通後も
入館者数の増加が継続

☑「観光バスの来訪」は頭打ち状態

☑観光バスにかわるマイカーやバイク
など、多様な移動手段利用への動き
がうかがえる



2. 調査結果(道の駅)

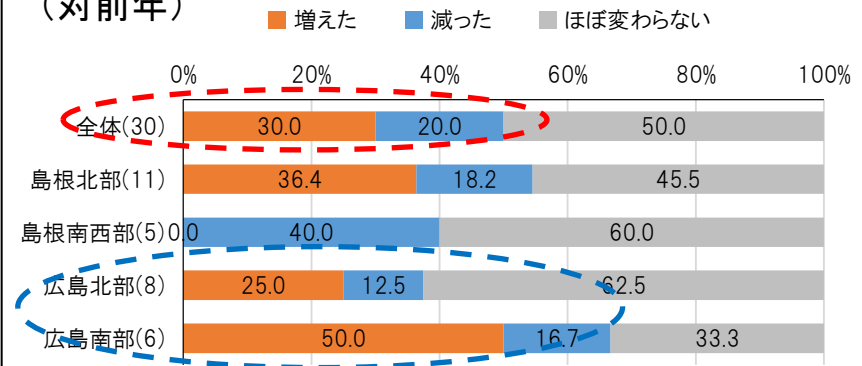
(1) 来訪者数の変化(エリア別)

☑ 3割の道の駅(9/30カ所)で
来訪者が「増加」

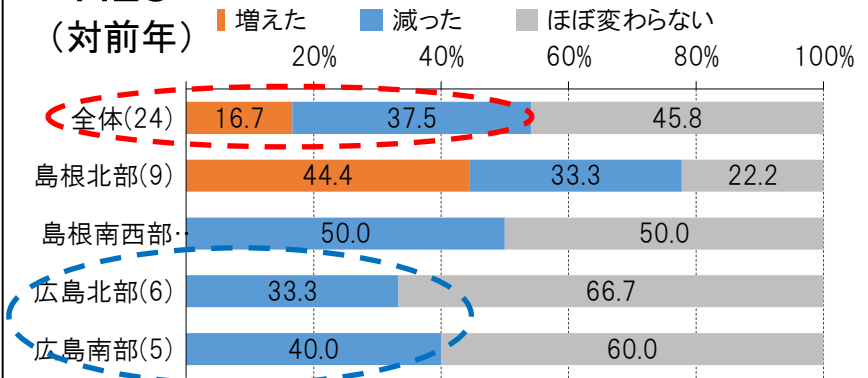
松江自動車道開通時(H25)と
比較して来訪者「減少」が改善
(H25: 37.5% → H27: 20.0%)

☑ 特に広島北部・南部のエリアに
おいて顕著な好影響が発現

H27 来訪者の変化(中国やまなみ街道全通)
(対前年)



H25 来訪者の変化(松江自動車道全通)
(対前年)



2. 調査結果(道の駅)

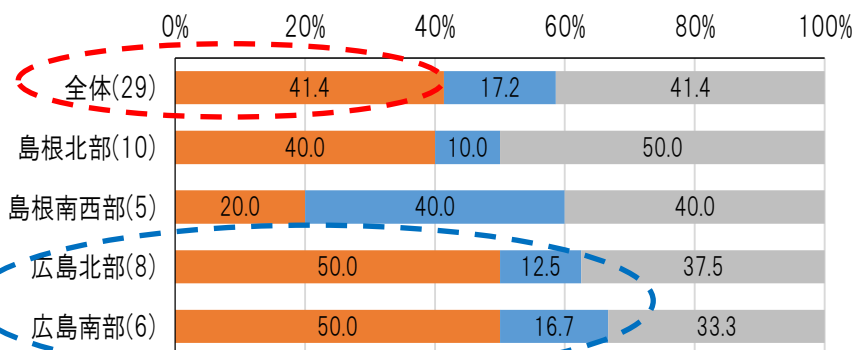
(2) 売上の増減(エリア別)

☑ 約4割の道の駅(12/29カ所)で「売上」が増加

☑ 広島北部・南部のエリアにおいて「売上減」が改善

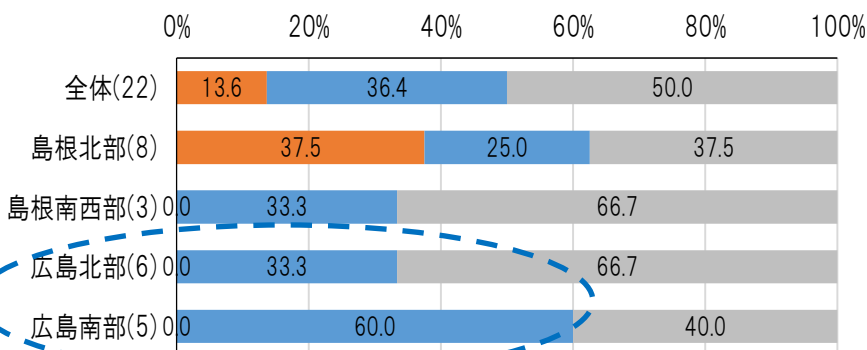
H27
(対前年) 売上の増減(中国やまなみ街道全通)

■ 増えた ■ 減った ■ ほぼ変わらない



H25
(対前年) 売上の増減(松江自動車道全通)

■ 増えた ■ 減った ■ ほぼ変わらない



2. 調査結果(道の駅)

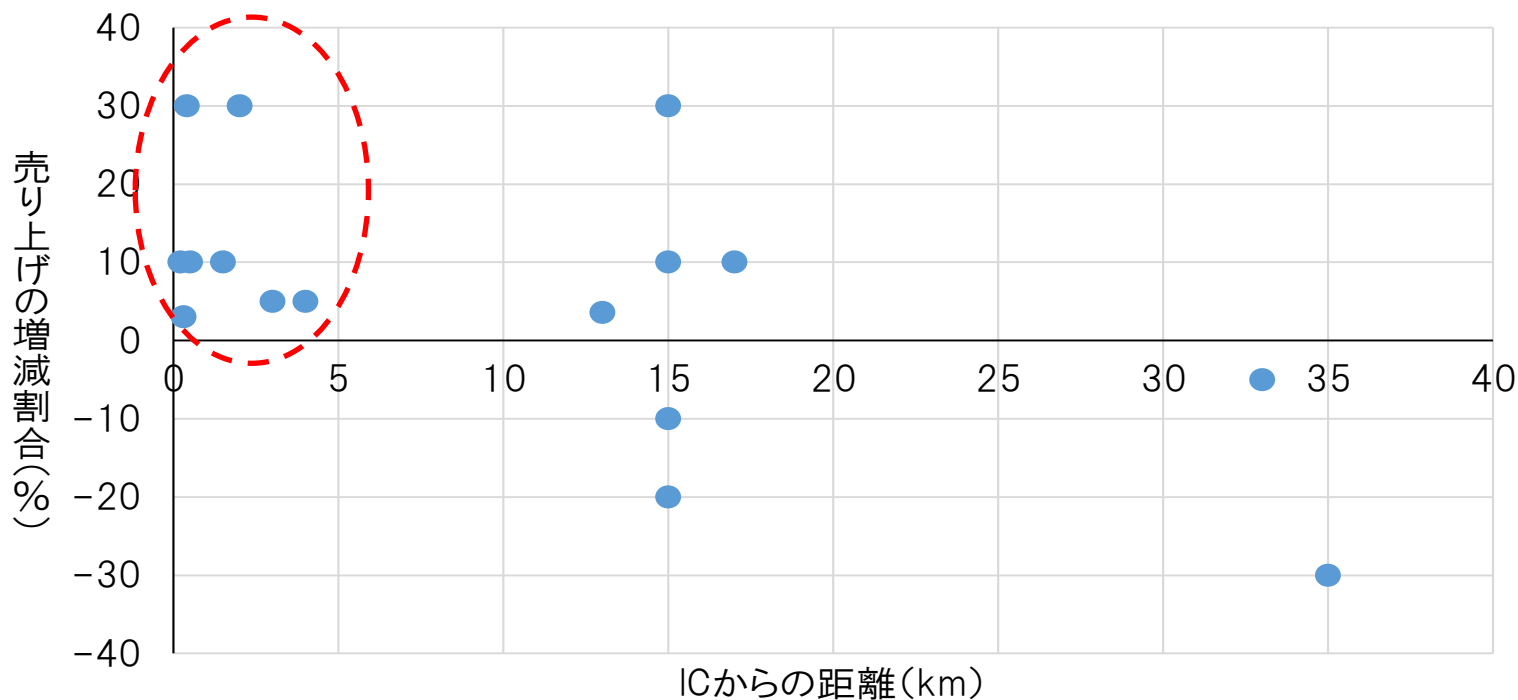
(3) 売上の増減(インターチェンジからの距離別)

☑ インターチェンジから5 km以内の施設での売上げ増が顕著

H27

(対前年)

ICからの距離×売り上げの増減割合(中国やまなみ街道全通)



2. 調査結果(道の駅)

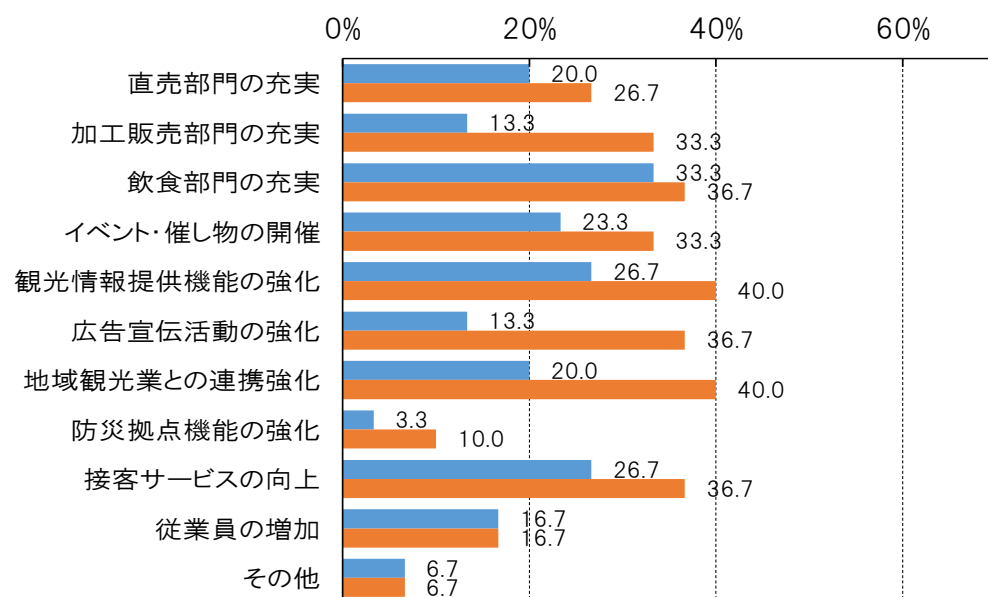
(4) 中国やまなみ街道全通にあわせた取組み

☑ 今後より力をいれようとしていることは「飲食の部門の充実」「観光情報提供機能の強化」「広告宣伝活動の強化」「地域観光業との連携強化」「接客サービス業の向上」など。

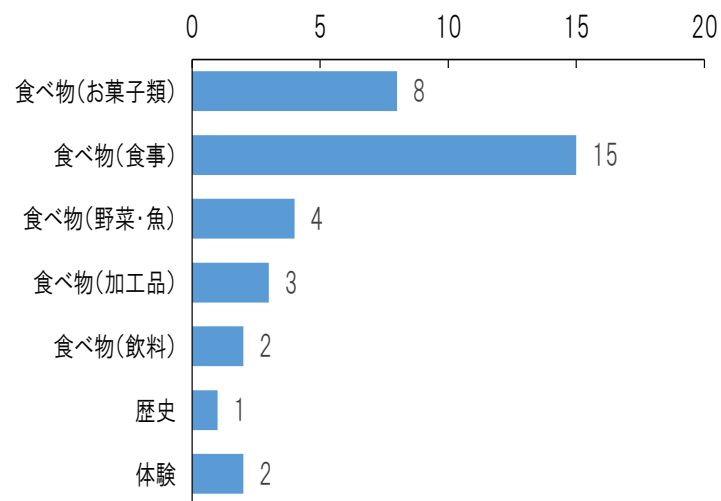
☑ 道の駅の差別化については、食品関連の商品・サービスによる取組みが多い

H27
(対前年) 全通に合わせた取組み（中国やまなみ街道全通）（n=30）

■ 全通にあわせ取り組んだこと ■ 今後力を入れていくこと



施設を特徴付けている商品・サービス
（中国やまなみ街道全通）（n=29）



(注)複数回答として集計

3. 調査結果を踏まえた考察

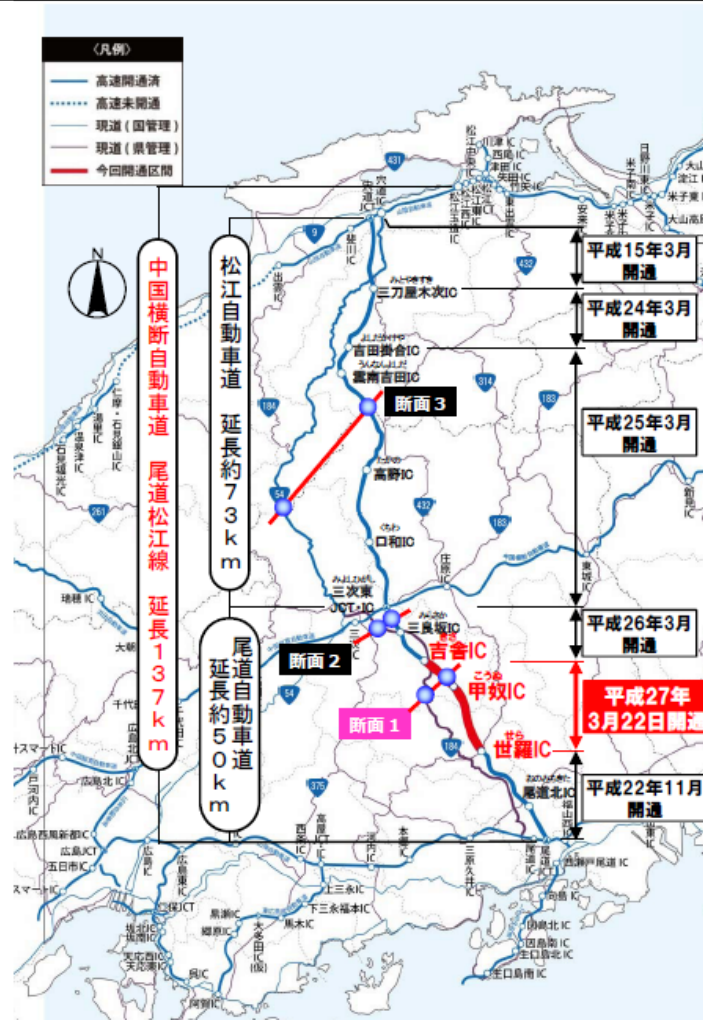
- ☑ 沿線地域には、2年前の松江自動車道（松江～三次）開通時に続く第2段階目の好影響が発現。
- ☑ 前回の好影響は島根北部に集中したが、今回はそれ以南の全地域へ好影響が広がっている。
- ☑ 陰陽間の交流が双方向になったことに加え、しまなみ海道・山陽道との接続により四国や関西・九州など集客範囲が拡大。
- ☑ 各層（中高年者、ファミリー連れ等）において、中国やまなみ街道全通後も入館者数の増加が継続。観光バスにかわるマイカーやバイクなど多様な移動手段利用への動きがうかがえる。
- ☑ 沿線の道の駅では「食」による特徴付けが進展し、入込数・売上の増加に寄与。

Ⅱ. ヒアリング調査

1, 全線開通に伴う交通量の変化

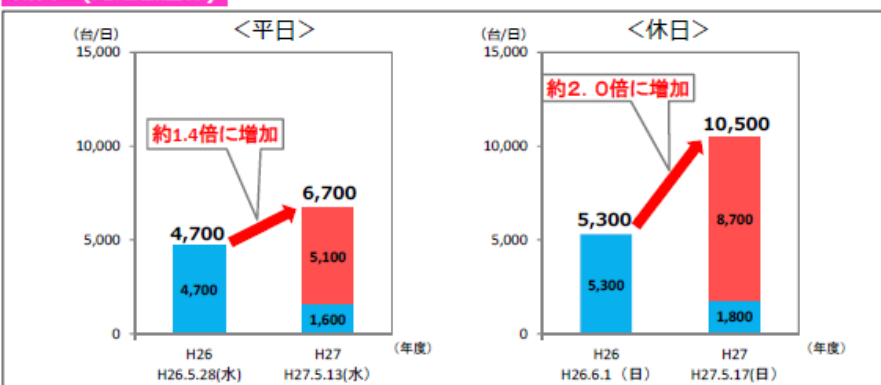
☑ 中国やまなみ街道全線開通に伴い、沿線の交通量は増加。

尾道道+R184の合計交通量は、平日が1.4倍、休日が2.0倍。松江道は平日・休日ともに1.1倍（開通後1.5カ月後の断面交通量）。



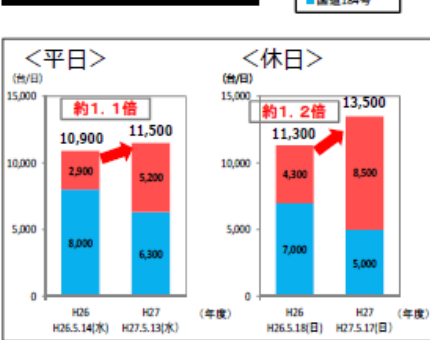
H27.3開通区間(世羅IC～吉舎IC間)の断面の
開通1.5ヶ月後の交通量変化

断面1(尾道松江線)

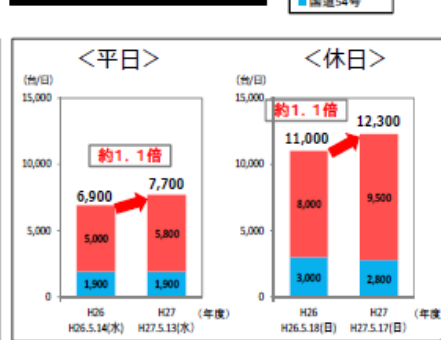


これまでの開通済み区間の断面の
開通1.5ヶ月後の交通量変化

断面2(尾道自動車道)



断面3(松江自動車道)



注) H26年度の国道184号の開通日は、平日5.28(水)、休日6.1(日)

(資料)国土交通省中国地方整備局記者発表資料(平成27年6月30日)

2. 調査概要

○ 調査目的

- ☑中国やまなみ街道全通約半年間
(H27年4月～10月)の波及効果を把握。
- ☑交流拡大をいかに地域振興に繋ぐか
との課題認識に基づき調査。

○ 調査方法等

対象： 中国やまなみ街道／54号沿線の
自治体(9) 道の駅 (7)

自治体等 (9)	道の駅 (7)
松江市・松江市商 工会議所、出雲市、 雲南市、奥出雲町、 飯南町、三次市、 庄原市、尾道市、 世羅町	たたらば壺番館、 掛合の里、頓原、 ゆめらんど布野、 たかの、世羅、 クロスロードみつぎ、

調査時期： 平成27年10月～11月

方 法： 対面式によるヒアリング調査



2. 調査概要

○ヒアリング調査結果(概要)

☑ 広域的な人・モノの交流が活性化するとともに、地域経済へも好影響

観光面	➤観光客の増	・ 備後・四国からの 集客増 ・ 広島空港からの インバウンド客増加
	➤観光ルート of 広域周遊化	・ 四国と山陰を繋ぐツアーの創出など 観光交流が拡大
	➤滞留拠点強化	・ 観光施設・道の駅整備等による観光 拠点構築
産業面	➤工業団地の整備促進	・ 新規企業立地・立地問合せが増加
	➤観光関連の新設投資	・ 宿泊施設・観光商業地等の 新規設備投資 誘引
	➤産業交流の進展	・ 経済圏域を超え , 山陰・山陽・四国間での交流促進
農業面	➤6次産業化の促進	・ 特産品開発・ブランド化 ・ 道の駅での販売増に伴う 所得・雇用拡大
	➤農業の成長産業化	・ 農業への 企業・Iターン 等の新規参入

☑道の駅の地域拠点化により地域振興が加速

地域振興 の拠点化	➤沿線「道の駅」において、 地域毎の特色を活かした先進的な取組 が進展
	➤地域資源(観光・農業)を活用し、道の駅が地方の ローカルハブ として展開 ・ 特産品の開発、ブランド化により 道の駅が目的地化 ・ 地域の産直市などと連携した 新たなサービス 開発 ・ 地元向け飲食・福祉サービスなど 地域振興の重点化 ・ 広域観光ルートの 立ち寄り拠点化

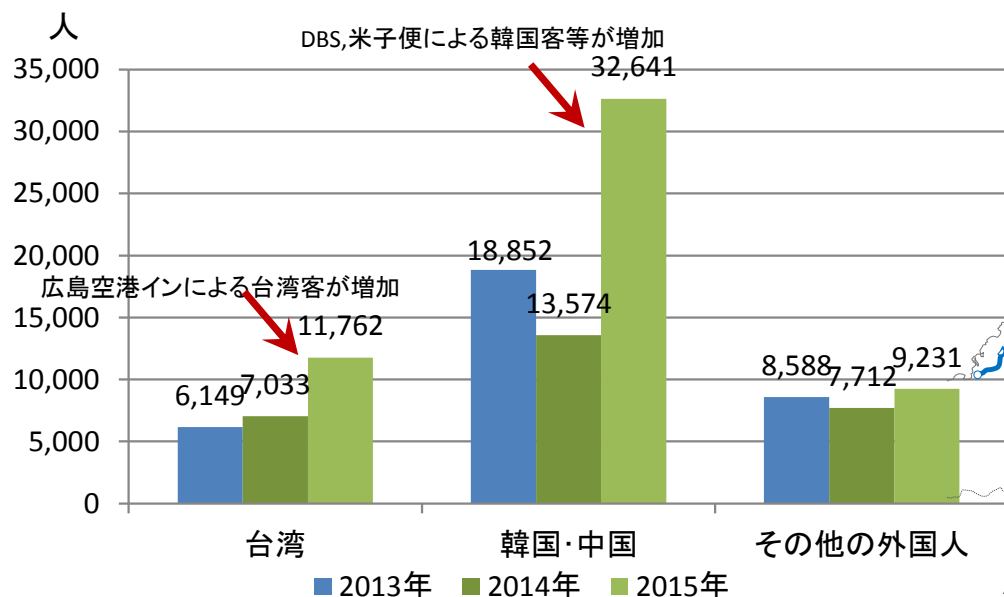
3 調査結果

(1) 観光面での波及効果(1/3)

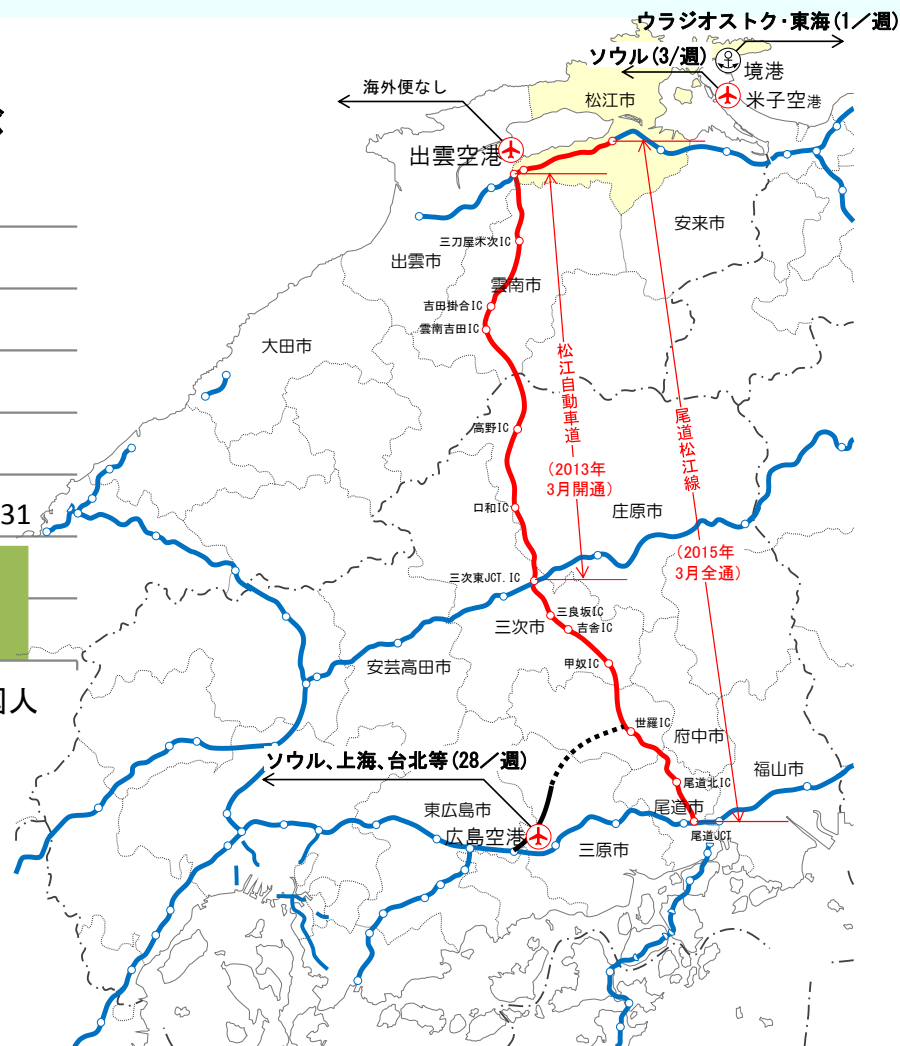
広島空港から山陰方面へのインバウンド客増加

➤ 山陰広域圏で韓国・台湾への観光プロモーション（松江市、出雲市等）

松江市における外国人入り込み客数の伸び



(注) 各年とも1月～8月の集計



(注) () 内は運行便数/週 (2015年10月現在)

3 調査結果

(1) 観光面での波及効果(2/3)

「“道の駅” 整備」「観光施設を核とした観光投資」による**滞留拠点強化**

- 農産物の販売拠点として「トレッタみよし」を整備、ワイナリー・美術館等との連携で東酒屋地区に**観光拠点を構築**。



3 調査結果

(1) 観光面での波及効果(3/3)

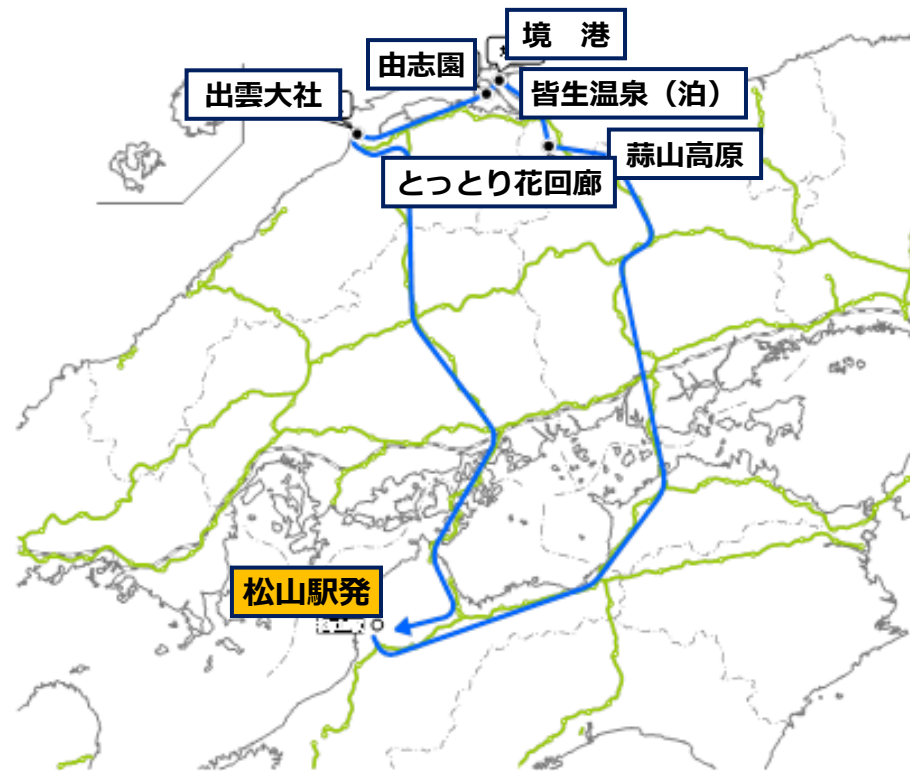
観光ルートの広域周遊化により**宿泊型ツアー**が創出

➤ 四国と山陰を繋ぐ、本四架橋と中国やまなみ街道等の横断道を組み合わせた1泊2日タイプのバスツアーも多く商品化されており、**山陰・四国間の観光交流拡大**。

■ しまなみ街道・中国やまなみ街道往復ツアー



■ 二つの本四架橋と中国やまなみ街道、岡山米子線により周遊するツアー



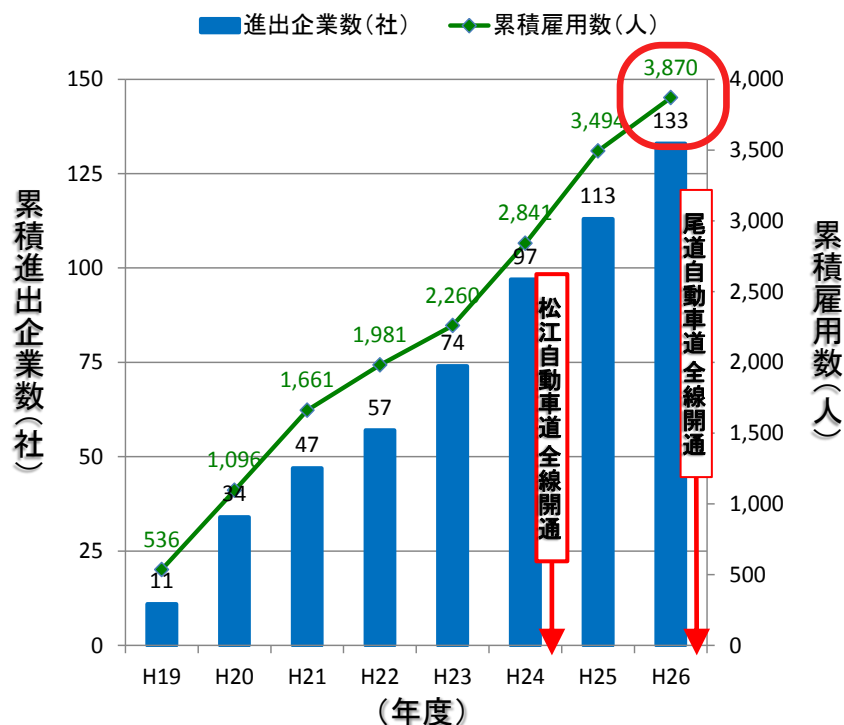
3 調査結果

(2) 産業面での波及効果(1/3)

工業団地の整備促進。新規企業立地、立地問合せが増加

- ▶ 三次工業団地Ⅲ期分への企業誘致。製造業や物流施設の立地を期待。(三次市)
- ▶ 神原企業団地(雲南市)への企業誘致に向け、詳細設計の段階。
- ▶ 斐川中央工業団地を造成(H27年度竣工)(出雲市)。製造業・流通業から多くの問合せ。

沿線の企業進出・雇用者数の変化状況



- ・ 沿線に進出した企業は、**延べ133社**。
- ・ **約3,900人**の雇用創出。
- ・ 更なる企業活動の活性化に期待。

斐川中央工業団地(分譲広告)



三次工業団地第Ⅲ期(約6.6haの規模)



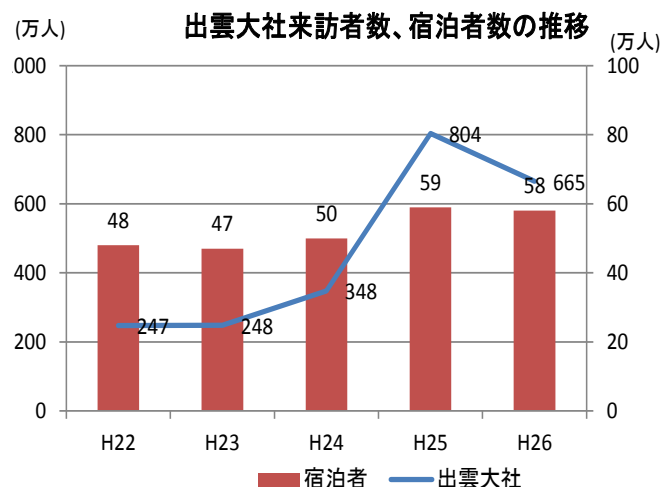
3 調査結果

(2) 産業面での波及効果(2/3)

観光基盤を整備。観光商業地の整備、宿泊強化補助制度等により設備投資を誘引

➤ 宿泊強化補助制度※をH26年度に創設。同制度を活用したホテルが開業(出雲市)

※建物部分の固定資産税の3年分を市が補助する制度



(H26.10 ホテルグリーンリッジ出雲)

➤ 観光地周辺を整備。拠点施設を核とした情報発信を行い、まち歩き観光を強化(出雲市)

■ 神門通り整備



■ 旧大社駅を核とした情報発信



3 調査結果

(2) 産業面での波及効果(3/3)

経済圏域を超える産業交流が進展。山陰・山陽・四国間での交流促進策が具体化

▶松江市、尾道市、今治市、松山市の
商工会議所会頭による交流を開始。

(松江市)

- ・尾道市、福山市との産業交流を深める。
- ・松山、今治、新居浜等四国との産業交流も開始予定。

- ・産業、観光交流の面で具体化施策としてプレミアム商品券を3市向けに販売



地域のものづくり
関連企業・大学など
約100社の
優れた商品・技術が
大集合!!

中海・宍道湖・大山圏域
ものづくり連携事業

**ビジネスマッチング
商談・展示会2015in出雲**
ビジネスのご縁を結ぶ山陰最大級のB to Bイベント

■と き 平成27年10月29日(木)
10:00~16:00

■ところ 出雲ドーム(島根県出雲市矢野町999)

■入 場 無 料(交流会への参加は有料)

お得に水の都松江に足を運んでみませんか。

【販売・利用有効期間共】平成27年8月1日(土)~11月30日(月)

島根県松江市では、尾道、松山、今治に在住し、松江市に旅行で訪れる方のために、平成27年8月1日(土)から「水の都 まつえプレミアム商品券」を発行します。購入額1万円が13,000円分のお買い物ができる商品券です。

Q1 商品券は、どんなもの?

- 販売対象者: 尾道市、松山市、今治市に在住の方
- 購入額: 10,000円(1冊あたり)@1,000円券×13枚綴り
- ※お一人あたり5冊まで。払い戻しはできません。
- 販売期間: 平成27年8月1日(土)~11月30日(月)
- 利用有効期間: 平成27年8月1日(土)~11月30日(月)
- ※販売期間と同様

Q2 商品券の購入は、どうすればよいの?

尾道、松山、今治の取扱登録旅行代理店にて購入していただけます。
(販売店舗一覧については、ホームページをご参照ください)
店頭で備え付けの「商品券購入申込書」に必要事項をご記入の上、
提出していただき、現金でお支払いの上、ご購入ください。

【主な販売箇所】

- 尾道市 / 阪中国トラベル尾道支店 TEL.0848-23-3355
尾道海運旅行センター TEL.0848-23-2900
- 今治市 / 阪全トラベルネットワーク今治支店 TEL.0898-33-1191
新せとうち観光今治本社 TEL.0898-33-1000
- 松山市 / 東宝トップアース松山支店 TEL.089-941-9231
新愛媛新聞旅行 TEL.089-933-3564
はと観光松山本社 TEL.089-946-4181
新伊予鉄トラベル本社営業所 TEL.089-941-1744
尾道松山日本ツーリスト中国四国 松山支店 TEL.089-941-4533 (ほか)

※営業時間、休業日は各店舗によって異なります。※平成27年7月1日現在、随時更新あり。

Q3 商品券は、どこで使えるの?

宿泊、飲食、おみやげなどに使えます。松江市内の「まつえプレミアム商品券」加盟店にてご利用できます。利用可能な店舗については、ホームページをご覧ください。
旅館・ホテル等のご予約につきましては、ホームページで登録店であることを確認の上、ご利用ください。

【ステッカー表示】



3 調査結果

(3) 農業面での波及効果

道の駅の販売が農業活性化を牽引。企業参入等で農業の成長産業化を推進

▶ 6次産業化による特産品開発・ブランド化

リンゴや大根など品質の高い高原野菜・果樹を中心とする農産物の販売増加、加工品のブランド化への展開が図られ、所得と雇用が拡大。

▶ 農業への企業・Iターン等の新規参入

3企業が高野町の県営開発農地で大規模キャベツ栽培(約30ha)に参入。

更に別企業が約15haの農場経営を開始。

三次市高野町の逸品開発



三次市新たに農場経営に参入する企業 (中電工ワールドファーム)

農業を成長産業として位置づけ、庄原市高野は大規模な野菜栽培に参入。

【合弁会社の概要】(予定)

会社名	株式会社 中電工ワールドファーム
所在地	広島市中区小網町6番12号((株)中電工内)
事業内容	野菜の生産・加工販売およびそれに附帯する事業
設立	平成27年11月
出資会社 (出資額)	中電工(5.6億円), ワールドファーム(0.6億円)
出資総額	6.2億円(資本金3.1億円 資本準備金3.1億円)

3 調査結果

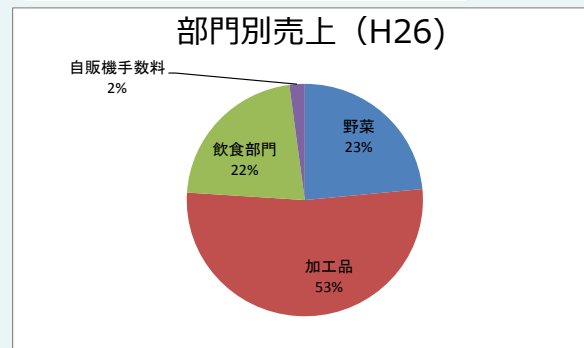
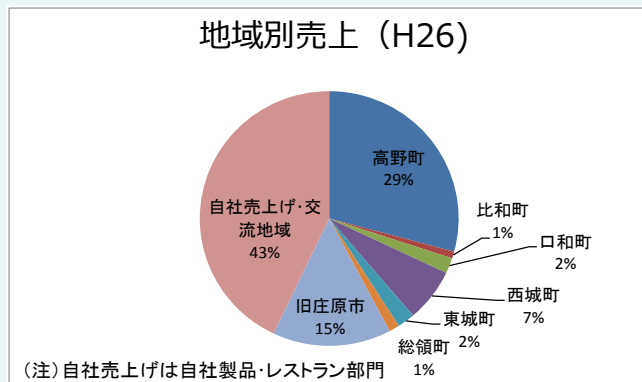
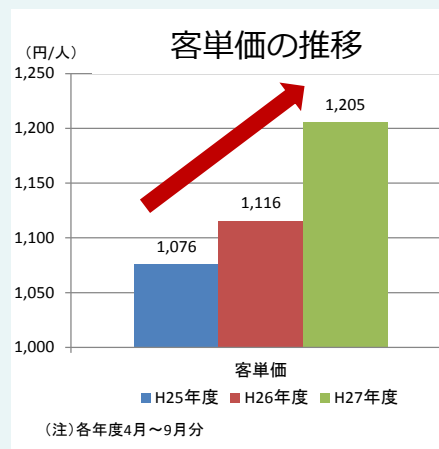
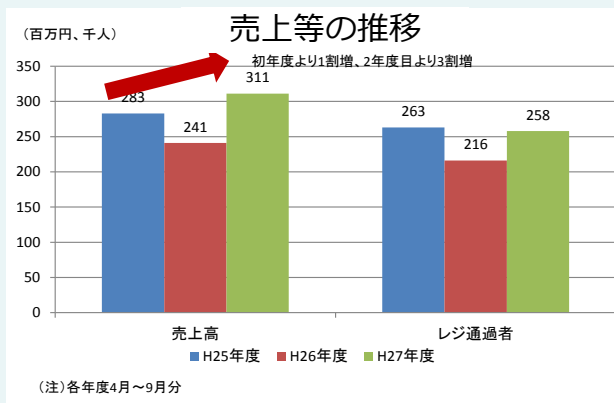
(4)道の駅での波及効果(1/4)

地域振興の拠点化（高野） 〈特産品の開発、ブランド化による道の駅が目的地化〉

- 目的地化されることによるリピーター客の増加と、回廊やテントによる対面販売の開始などで客単価が増加。売上げは加工品が半数強を占める。

〔道の駅たかの〕

雇用は正社員とパートで41名、アルバイト10名。約8割が地元（市内）雇用。



3 調査結果

(4) 道の駅での波及効果(2/4)

地域振興の拠点化（世羅）

〈地域の産直市との連携や地元飲食店と連携した新たなサービス開発〉

- コンセプトは情報発信基地。
- 道の駅単独の売上げよりも町全体（産直市や観光農園）で集客増と販売増加が目標。

■ 道の駅のインフォメーションセンター



案内人(コンシェルジェ)が常駐

中国やまなみ街道沿いの集客力を活かし、高速道路から降りた観光客を近隣の産直市・観光施設へ送り込む



3 調査結果

(4)道の駅での波及効果(3/4)

地域振興の拠点化

〈地元向けの飲食・福祉サービス、イベント実施など地域振興の重点化〉

➤地元向イベントの対応強化

➤地元客向けの飲食、仕出し、宴会ニーズに対応
宅配弁当サービスを提供

〔道の駅たかの〕

地元住民向けのイベント



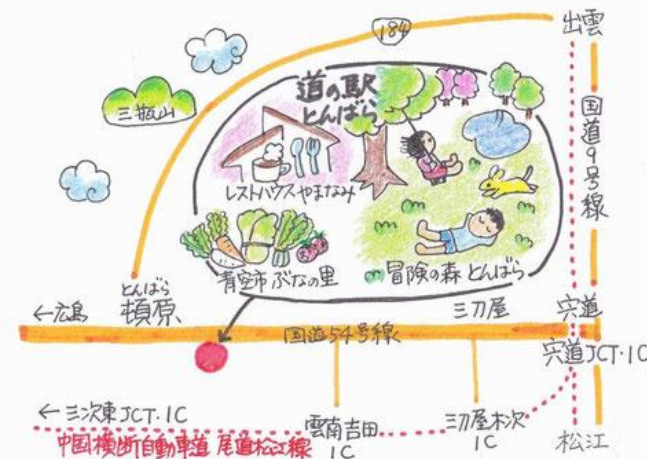
〔道の駅みつぎクロスロード〕

広いテラスは地域の人々の
交流空間としても活用



〔道の駅頓原〕

隣接する里山で地域が
整備した冒険の森



3 調査結果

(4) 道の駅での波及効果(4/4)

地域振興の拠点化（掛合）

〈一般道を利用した広域観光ルート of 立ち寄り拠点化〉

▶ 域内観光地に観光客を誘引

吉田掛合IC～出雲大社を繋ぐ須佐神社※（一般道沿い）への立ち寄りを強化



須佐神社：

須佐之男命の御魂を祀る唯一の神社。
他にもヤマタノオロチ退治に登場する
四神が祀られている。
出雲の風土記にも登場し、日本一のパ
ワースポットの場所として雑誌・テレ
ビなどで紹介されている。



4 調査結果を踏まえた考察

道の駅における「地域連携」モデル

- ・沿線“道の駅”においては、「地域連携」を通じた拠点性発揮という観点から、地域毎の特徴を生かした先進的な取組が発現中
- ・主な「地域連携」モデルは次の3類型。今後とも、沿線自治体等とも連携しながら、水平展開・進展を期待

6次産業化 推進モデル

- 道の駅を地域特産品の**販売拠点**と位置付け、品質の高い野菜特産品を中心に**地元農産品・加工品**を打ち出す戦略
- **バリューチェーン**（生産・加工・販売・プロモーション）を地元生産者・加工業者と連携して構築
- 地域特産品を活かした**農作物・加工品のブランド化**により、地元農業の活性化を推進

モデル道の駅
「たかの」

地域送客 モデル

- 中国やまなみ街道沿いの集客力を活かし、高速道路から降りた観光客を近隣の産直市・観光施設へ送り込むことで、道の駅単独ではなく**地域全体における経済性向上**を志向
- コンセプトは、**道の駅＝情報発信基地**

モデル道の駅
「世羅」

地域密着 サービス モデル

- （中国やまなみ街道から外れる54号線沿い）立地条件の不利を、**地域密着型のサービス提供**（地域食材を活かしたバイキング、地域高齢者向けの食事宅配サービス等）に特化、差別化することで、**松江道開通後に一旦落ち込んだ収益性を改善**

モデル道の駅
「ゆめらんど
布野」